
4. 今後の治水対策検討

4.1 モニタリング

今後の浸水被害の発生において、浸水の実態や被害発生要因の把握及び既設の内水排水施設の効果検証のために、河川及び流域内の各地点の水位・流量観測施設での水文観測を継続し、各種の水文データを蓄積する。

4.2 対策効果の検証・公表

今後の出水時においては、必要に応じて被害発生時の内水位、浸水家屋等をシミュレーションで再現し、定量化を図る。各治水施設の水位低下や樋門閉鎖時間短縮の効果等を検証・評価し、その結果を公表する。

5. その他

本計画は、「平成30年7月豪雨浸水対策連絡協議会」において、国土交通省・福岡県・飯塚市でとりまとめたものであり、計画の実施にあたっては、各機関が連携し着実進捗を図るとともに、対策スケジュール・内容の具体化や対策内容の追加・見直しなどが必要となった場合は、適時、本計画を改定・公表するものとする。

【附則】

策定及び改定経過		
区分	年月	備考
策定	令和2年3月	庄司川総合内水対策計画

平成30年7月豪雨浸水対策連絡協議会		
飯塚市	福岡県	国土交通省
都市建設部 土木建設課 土木管理課 農業土木課 企業局 下水道課	河川整備課 飯塚県土整備事務所	遠賀川河川事務所